

私たちの暮らしを支える行政のはたらきと租税

東根市立神町小学校教諭 6学年 奥山 晃弘

実施年月日：平成31年1月15日～25日 31名

1 実践計画・指導のねらい

子どもたちにとって「消費税」という言葉は比較的馴染みのあるものである。算数の割合の学習においても、買い物の場面を想定して商品の金額に8%分上乗せし、代金を計算する活動をしている。しかし、その他の税の種類や税金が何に使われているのかまでわかる子どもはほとんどいない。また、興味関心も低いことが考えられる。それらをふまえ、本単元の学習内容は大きく以下の3点である。①私たちの暮らしに、行政（市・県・国）の行政の働きが大きく関わっていること。②行政の予算は私たちが納めている税金によってまかなわれていること。③租税の使い方は公報等を通じて知ることができ、納税の義務と併せて、税金に対する自分の考えをもつこと。指導にあたっては、課題を自分事として捉えられるよう、身の回りの事象から考えを広げていくようにする。

2 単元構成・実際の指導状況

時間	学習内容	主な発問(○)、子どもたちの反応(●)、使用教材等(□)
1	・租税教室を通して税金とその役割を知る。	○ <u>税金ってなんだろう？</u> ● 世の中の様々なものに税金が使われているんだ。 ● 税がないと、私たちの生活が成り立たなくなるんだ。 ● 税金を納めることは大切なんだ。 □税のビデオ（マリンとヤマト） □【租税教室】税理士の須藤さん、村山税務署の職員さん
2	・住民の要望を実現する地方公共団体の働きについて身の回りをふりかえったり、資料を活用したりして理解する。	○ <u>東根市は、私たちの生活のためにどのようなことをしているのだろう？</u> ● 新しくサッカー場や市民プールができたよ。 ● まなびアテラスやあそびあランド、タントクルセンターによく行くよ。 ● 東桜学館は、県立だから山形県が運営しているんだね。 ● 水道、ごみ処理、消防も東根市が関わっているんだね。 ● 15歳まで医療費がかからないのは、市がお金を出してるんだ。 ● 東根市は1年で216億円も収入があるんだ。 □東根市公報（1月）
3	・住民の要望は、どのようにして実現されるか資料を活用して理解する。	○ <u>神町小学校の新校舎建設は、どのようにして実現されたのだろう？</u> ● 今の学校が古いから新校舎が建つんだよね。神町の人が市役所に行ったのかな？ ● 新校舎に40億円以上かかるなんてすごい予算だ。東根市の予算の5分の1だ。 ● 専門委員会って、学校の先生とか建築士さんとかもいるのかな？ ● 神町に住んでいない人の分の税金も使うんだから、本当にその設備が必要かどうかを市議会で話合う必要があるんじゃないかな。 ● 県や国からも補助金が出るんじゃないかな。 □新しい社会下（社会科教科書）
4	・住民の要望を実現させるためには、税金が重要な役割をもっていることを理解し、納税に対する自分の考えをまとめる。	○ <u>税金を納めることについて、自分の考えを説明しよう。</u> ● スウェーデンの消費税は25%もある。日本は8%でラッキーだ。 ● 消費税以外にも所得税、法人税、自動車税とか、いろんな物に税金がかかる。 ● 国の収入の約35%が借金なんて、大変だ。 ● 毎年借金が増えてるから、未来は危ないんじゃないのかな。 ● 消費税が10%になるのも仕方ないような気がする。自分のためにもみんなのためにも使われる税金をぼくたちはきちんと払っていかなくちゃいけない。 □新しい社会下（社会科教科書） □わたしたちの暮らしと税金

【指導のポイント】《1時間目》

単元の導入としてビデオアニメを通してながら、税金の概要について税理士さんから話をさせていただいた。また、税務署の職員さんからは、税金を預かる責任の重みや納税の大切さについて話をさせていただいた。

【指導のポイント】《2時間目》

身の回りの公共物など、思いつくものを出させ切った後で、資料を配付した。市報1月には、前年度の歳入歳出について記事が載っている。意外なことが多かったようで、驚きの声があがっていた。同時に子どもたちにとっては馴染みのない言葉が多いので、写真や具体例なども用いて理解の助けとした。

【指導のポイント】《3時間目》

2020年末に神町小学校の新校舎が開校するのに伴い、工事が始まっていることを子どもたちは知っている。新校舎建設に対する住民の思いや、予算の額の大きさ、なぜ議会の賛成が必要なのか等をじっくり考えさせることで、税金の適切な使い方についておさえるようにした。

【指導のポイント】《4時間目》

外国の消費税は高く、日本は低い。このことを最初に見せたとき、子どもたちは喜んでた。しかし、学習がすすむにつれて、国債費が積み上がっている今の日本の租税に疑問をもつ子どもが多くなっていった。税金を上げた方がいいかどうかの議論で終わるのではなく、自分ができることを考えさせていくようにした。

3 実践の成果(◎)と課題(◆)

◎ 身近な事象を題材として授業を構成したことで、子どもたちは課題意識を持って学習をすすめることができた。

◎ 税金は自分たちの生活になくてはならないものとして捉え、一人ひとりが自分なりの、税に対する肯定的な考えをもつことができた。

◆ 今回の実践にあたって、税に関する資料をたくさんいただいたが、生かしきることができなかった。しっかりと教材研究をすれば、教師・子ども共にもっと深い学びができると感じた。

(その他) 市役所の方などゲストティーチャーを呼ぶことができれば、一層子どもたちの税に対する関心は高まると思った。